

厳島神社門前町における 町家の¹⁴C年代調査とその意義

Radiocarbon Dating of Townhouses in front of Itsukushima Shrine
and the Impact of the Analysis

藤田盟児

FUJITA Meiji

はじめに

①伝建調査の結果と問題

②厳島神社門前町の町家の測定結果

③¹⁴C年代調査による編年の修正

④田中家住宅と飯田家作業所の歴史的・文化財的価値

⑤厳島神社門前町の町家からみた町家形式の成立試論

おわりに

【論文要旨】

宮島にある厳島神社の門前町には、オウエという吹き抜けになった部屋をもつ町家群があり、中部・北陸地方の町家形式に酷似する。平成17年度から18年度にかけて実施した伝統的建造物群保存対策調査で、それらの建造年代を形式や技法の新旧関係から推定する編年を行ったが、18世紀後期と推定した田中家住宅と飯田家作業所について¹⁴C年代調査を行ったところ、両方とも17世紀後期の建築である可能性が高まった。このことから、厳島神社門前町の町家建築の編年を見直し、¹⁴C年代調査が民家調査の編年に及ぼす影響について述べた。

さらに、両遺構はこれまで実在しないと思われていた17世紀の平屋の町家建築である可能性が高まったので、従来は洛中洛外図屏風など中世末期から近世にかけての絵画史料や文献史料で行われてきた中近世移行期の民家史と都市史に新たな知見をもたらす非常に重要な町家遺構であることを述べた。そして最後に、伝建調査では吹き抜けになったオウエをもつ町家形式が中近世移行期の町家の形状を残す古い形式である可能性があることを示したが、厳島神社門前町の町家遺構の年代観の変化と、関連する史料と類例の追加によって、それについても修正し、町家形式の変遷過程に対する展望として提示した。

厳島神社門前町の町家は、そうした全国の類例の中でも間口が狭く、中世の町家の特色をよく残していると推測されるが、それは厳島が中世の住民と都市環境を近世まで継承した希少な宗教都市であったという歴史の反映であると考えられる。

【キーワード】 厳島, 町家, 編年, 17世紀, オウエ, 洛中洛外図, 吹き抜け